

## 地区ニュース

### 平成18年度東北地区における公開シンポジウム等の開催報告

東北地区ニュース担当 佐藤 健\*

#### 1. はじめに

日本自然災害学会東北支部、および自然災害研究協議会東北地区部会が主催や共催となった下記の3つの公開シンポジウム等について、その開催概要を報告する。

- ・平成18年度東北地区災害科学研究集会における公開シンポジウム
- ・第2回災害に強いコミュニティのための市民フォーラム
- ・定例宮城県沖地震シンポジウム（第5回）

#### 2. 平成18年度東北地区災害科学研究集会における公開シンポジウム

日本自然災害学会東北支部と自然災害研究協議会東北地区部会とが合同で定期開催している東北地区災害科学研究集会では、例年、研究発表会に加えて公開シンポジウムを開催している。平成18年度については、平成19年1月13日(土)、岩手大学工学部テクノホールにおいて、下記の2題の基調講演があり、自然科学と社会科学の両側面からの熱心な質疑応答も行われた。

- ・堺 茂樹（岩手大学工学部・教授）  
「岩手大学での津波防災に関する取り組み」
- ・山口 浩（岩手大学人文社会科学部・教授）  
「災害被害者の心のケア」

なお、平成18年度の研究発表は、全53題の研究発表があり、その成果は上記の2題の基調講演とともに、東北地域災害科学研究の第43巻（平成19

年3月発行）としてまとめられている。下記のウェブページでも開催概要を知ることができる。

[http://www.disaster.archi.tohoku.ac.jp/tohoku\\_nds/index.htm](http://www.disaster.archi.tohoku.ac.jp/tohoku_nds/index.htm)



堺 茂樹教授



山口 浩教授



シンポジウム会場のようす

\* 東北大学大学院工学研究科附属災害制御研究センター

### 3. 第2回災害に強いコミュニティのための市民フォーラム

第2回災害に強いコミュニティのための市民フォーラムは、平成19年2月25日(日)、せんだいメディアテーク1階オープンスクエアで開催された。主催は、宮城県沖地震対策研究協議会(7つの提案実現化WG)であり、日本自然災害学会東北支部、自然災害研究協議会東北地区部会ほかが共催した。

第1部としては、応急救護に関する知識と技術を3人一組のチームで競い合う「救護の達人コンテスト」が実施され、優勝と準優勝チームには、救護の達人の称号が宮城県沖地震対策研究協議会災害医療部会から授与された。出場チームの6割は、婦人防火クラブ員で構成されたチームであり、一般参加の拡大が今後の課題である。第2部としては、「想定宮城県沖地震に対する地域防災力と医療の備え、そして地域間連携の構築に向けて」をテーマとし、下記の2題の招待講演と4題の特別報告があった。

#### 招待講演

- ・重川 希志依(富士常葉大学・教授)  
「市民が主役の防災まちづくり」
- ・藤原 健史(阪南市事業部都市整備課・主幹)  
「緊急事態対応に関する米国カリフォルニア州取材報告～市民の防災活動 CERT-LA から学ぶべきもの～」

#### 特別報告

- ・篠澤 洋太郎(東北大学大学院医学系研究科・教授)  
「7つの提案実現化WG 誕生の経緯とその活動について」
- ・柴山 明寛(東北大学大学院工学研究科・研究員)  
「コミュニティと医療の連携防災モデル～静岡市清水区防災訓練の視察報告～」
- ・菅原 康雄(仙台市宮城野区福角町町内会・会長)  
「最近の自主防災活動のトピックス～町内会の防災訓練に自分や家族の命を救う方法があった」
- ・京谷 国雄(仙台市太白区鉤取ニュータウン町内会・会長)



市民フォーラム会場のようす



パネル展示コーナー



救護の達人コンテスト風景

「最近の自主防災活動のトピックス～夜間防災訓練(応急救護など)を中心に～」  
さらに併催企画として、救命救急や応急救護に関する情報パネル展示、地域防災活動に関する情

報交流コーナー、地震体験車「ぐらら」による地震体験が同時開催された。

なお、主催した宮城県沖地震対策研究協議会の7つの提案実現化WGは、第11回日本集団災害医学会総会（会期：2006年2月10日～11日、仙台国際センター）においてアピールされた「宮城県沖地震に対する医療の備えを強化するための7つの提案」を実現化するために立ち上げられたワーキンググループであり、7つの提案にあわせて下記の7つのタスクフォースが設置され、活動を展開している。各タスクフォースの活動内容や主査、委員構成などについては、下記のウェブページを参照することができる。

<http://www.dcrc.tohoku.ac.jp/wiki/index.php>

タスクフォース1：コミュニティ緊急事態対応チーム CERT の宮城モデルの創設

タスクフォース2：災害弱者に対する多重的支援計画の具体化

タスクフォース3：災害時の情報の標準化と情報集約・配信体制の確立

タスクフォース4：隣県自治体間・施設間の顔の見える相互支援体制の確立

タスクフォース5：災害医療コーディネーションシステムの構築と災害医療コーディネーターの戦略的育成

タスクフォース6：疾患個別的な医療ニーズへの対応

タスクフォース7：継続的な被災住民健康支援体制の確立

#### 4. 定例宮城県沖地震シンポジウム（第5回）

本誌第22巻、第1号の地区ニュースとして本シンポジウム（第1回）の開催報告記事を掲載して以来、毎年1回の定例開催を重ねてきており、今回で5年目を迎えたことになる。

定例宮城県沖地震シンポジウム（第5回）は、「防災研究成果普及事業の成果と今後の展開」をテーマとし、平成19年3月10日（土）、エル・パーク仙台ギャラリーホールで開催された。主催は、宮城県沖地震対策研究協議会であり、日本自然災害学会東北支部、自然災害研究協議会東北地区部



基調講演（長谷川昭教授）



パネルディスカッション



シンポジウム会場のようす

会ほかが協賛した。

テーマ企画の背景としては、宮城県・仙台市・東北大学が提案機関として平成16年度から3年間、事業展開してきた文部科学省防災研究成果普

及事業「迫り来る宮城県沖地震に備えた地域防災情報の共有化と防災力高度化戦略」の事業終了にあたり、事業成果に対する評価と今後の普及・展開について総合討論を行う目的で企画された。

第1部の基調講演では、長谷川昭先生（東北大学大学院理学研究科地震・噴火予知研究観測センター教授）から「次の宮城県沖地震の想定されるシナリオ」と題して、最新の地震観測データに基づいた研究成果が紹介された。第2部の特別報告では、文部科学省防災研究成果普及事業の成果について事業推進者から報告され、引き続き第3部として、「ポスト防災研究成果普及事業」をテーマとしたパネルディスカッションが、増田 聡（東北大学大学院経済学研究科・教授）を座長に、下記の産官学それぞれの立場のパネリストを迎えて行われた。

パネリスト

- 源栄 正人（東北大学大学院工学研究科・教授、  
防災研究成果普及事業・事業推進代表）
- 小泉 保（宮城県総務部・危機管理監）
- 見上 一幸（宮城教育大学附属小学校・校長）
- 門脇 喜典（大崎市総務部消防防災課・主幹兼  
消防防災係長）
- 渋谷 佳宏（北仙台地域防災ネットワーク・代表）
- 神田 重雄（(社)日本技術士会東北支部防災研究会・委員長）

## 5. おわりに

東北地区において平成18年度に開催された3つの公開企画についてその開催概要を報告した。昨年度からは日本自然災害学会東北支部、および自然災害研究協議会東北地区部会が後援した「震災対策技術展／自然災害対策技術展」宮城（仙台会場）も開催されるようになり、安心で安全な地域社会の創生に対する社会的な要求は高まる一方である。

日本自然災害学会東北支部、および自然災害研究協議会東北地区部会では、東北地区内における会員相互の情報共有化と外部への情報発信、社会

貢献を積極的に実施しているが、今後も自然災害科学の研究の発展につとめるとともに、東北地区の防災・減災に向けた社会からの期待に応えていく必要があると考える。